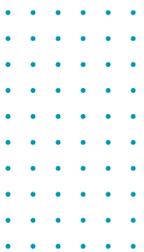
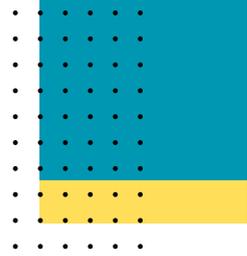




Environmental report  
環境報告書2025  
HIRAOKA & CO., LTD.



# 目次



トップメッセージ	P.3
当社について	P.4
環境保全活動の歩み	P.5
環境基本方針	P.6
リスク管理体制	P.7
当社のビジネスモデル	P.8
2024年度までの環境中期計画結果	P.9
2027年に向けた環境中期計画	P.10
環境報告の全体像	P.11
環境負荷低減への取り組み	
【気候変動抑制】	P.12
【水資源・生物多様性保全】	P.13
【産業廃棄物削減】	P.14
【化学物質の適正管理】	P.15
【大気汚染予防】	P.16
3Rからサーキュラーエコノミー（循環型社会）の形成	P.17
人と環境にやさしい企業活動	P.18
人と環境にやさしい製品づくり	P.19

## 編集方針

【報告書の対象期間】

2024年4月1日～2025年3月31日

【報告書の対象範囲】

東京本社、大阪支店、草加事業所、滋賀ターポリン工場

## これからの環境問題に 当社ができる選択を

代表取締役社長 **平岡 利文**



私たちは今、様々な地球環境問題に直面しています。

特に温暖化に関しましては、酷暑を始め線状降水帯など、昭和・平成の時代には無かった現象が発生しています。

昭和に築かれた多くのインフラの建築物の材料には、その普遍性からコンクリートや鉄骨といった硬い材料が利用されてきました。

その材料の製造時には多くの化石燃料を消費し、さらに老朽化による解体時には大量の産業廃棄物を生み出してしまいます。

当社は、繊維基材と高分子材料を独自の配合技術と加工技術を組み合わせ、一体化させ、軽量で耐久性の高い多種多様な膜材料製品を作り提供し続けています。

この膜材料製品を使用した建築物では、在来工法に比べ大幅なCO<sub>2</sub>削減が可能で、膜材を使用したテント屋根の太陽光透過による室内照明の削減はエネルギー消費を抑えることに貢献します。

私たちは、このような膜材料製品を作り提供することで、人と環境にやさしい持続可能な社会の実現を目指し、地球規模の環境問題や社会課題の解決に向け、これからも挑戦を続けてまいります。

## 会社概要

名 称	平岡織染株式会社
本社所在地	東京都台東区三ノ輪1-21-7
代 表 者	平岡利文
資 本 金	48,438千円
創 業	明治35年8月（1902年）
事 業 所	東京本社、大阪支店、草加事業所、滋賀ターポリン工場（以下、滋賀工場）

## 国内ネットワーク



## 環境保全活動の歩み



- 2004.01 草加事業所にガスコージェネレーション(550kW)を導入設置、稼働開始
- 2006.08 草加事業所に蓄熱式排ガス浄化装置(150m<sup>3</sup>/分)を導入設置、稼働開始  
※VOC大気放出量の大幅削減に貢献
- 2008.11 滋賀工場の重油焚きボイラ3基を高効率のガス焚きボイラに更新し、  
同工場の重油使用を全廃
- 2010.12 草加事業所の重油焚きボイラ2基を高効率のガス焚きボイラに更新し、  
全社の重油使用を全廃
- 2012.05 滋賀工場の湿式電気集塵機(排煙処理装置)追加設置・稼働開始
- 2013.05 滋賀工場の脱臭装置新規設置・稼働開始
- 2014.01 草加事業所の照明器具全てをLEDタイプにリニューアル開始
- 2015.04 草加事業所に高効率型ロールコーターを導入設置、本格稼働開始
- 2016.08 草加事業所の蒸気ボイラ(ガス焚き)を高効率型に更新、稼働開始
- 2018.03 滋賀工場の帆布熱処理炉を熱媒加熱式高効率型(臭気低減タイプ)に改修
- 2018.07 滋賀工場棟の照明器具全てをLEDタイプにリニューアル開始
- 2018.09 草加事業所の排水処理施設を最新型加圧凝集浮上設備へ更新
- 2019.01 滋賀工場の熱媒ボイラ(ガス焚き)を高効率型に更新、稼働開始
- 2019.03 草加事業所のガスコージェネレーション(550kW)を700kWタイプに更新、稼働開始
- 2020.02 滋賀工場の高圧蒸気ボイラ(ガス焚き)を高効率型に更新、稼働開始
- 2020.06 草加事業所の事務所棟の窓の遮熱対策実施
- 2021.02 滋賀工場の蒸気ボイラ(ガス焚き)2基を高効率型に更新、稼働開始
- 2022.05 草加事業所の厚生棟の屋根を遮熱塗装での改修工事
- 2023.03 草加事業所・滋賀工場で使用済み作業着のリサイクル回収開始
- 2023.04 草加事業所の産廃リサイクル業者を新規開拓しサーマルリサイクル開始
- 2024.04 滋賀工場の産廃リサイクル業者を新規開拓しケミカルリサイクル開始
- 2025.01 草加事業所の蒸気ボイラ(ガス焚き)2基を高効率型に更新、稼働開始



平岡織染株式会社は、繊維素材をベースに様々な合成樹脂と組み合わせることで機能的で使いやすい製品を製造、提供しています。機能性や特性を重視する建築、土木といった産業分野やデザイン性や嗜好性が求められる店舗、スポーツ、レジャー用品など、幅広い分野でご利用いただいています。

私たちは、企業が成長し続けるためには、企業活動に伴って発生する環境への負荷を最小限に留めることが最も重要であることを認識しています。事業活動、製品、サービスから生じる環境への負荷を的確に捉え、技術的そして経済的に可能な範囲で、目的・目標を設定し、汚染の予防の継続的な維持・改善に努め、環境の保全と向上を図るため、次の施策を推進します。

1. 事業活動は、環境、健康、安全に留意し、汚染予防に最善を尽くします。  
特に、製品の製造に伴い使用する化学物質等の取り扱い及び管理の適正化に努めます。
2. 環境に関する各法規制を遵守するとともに、自主基準、規定などを整備し、管理の一層の向上に努めます。
3. 省資源、省エネルギー、リサイクル、廃棄物の減量化などに積極的に取り組みます。
4. 環境に配慮した研究、開発、設計を行います。
5. 社員に環境教育を実施し、環境保全意識の向上に努めます。
6. 「環境基本方針」は、関連協力会社に周知すると共に外部からの要求に応じて提供します。



## リスクマネジメントの推進

重要な環境課題に関連するリスクの特定・評価と対応策は、営業部門と技術部門合同の連絡会議において毎月検討しています。

当社の事業活動に重大な影響を及ぼすおそれのあるさまざまなリスク項目のうち、重要な環境課題に関連するリスクとしては化学物質規制強化への対応が挙げられます。

例としては、当社の主要製品群で使用しているフッ素系撥水剤が2027年に規制対象となるため、代替吸水防止処理技術の研究と代替資材対応策を急務で行っております。

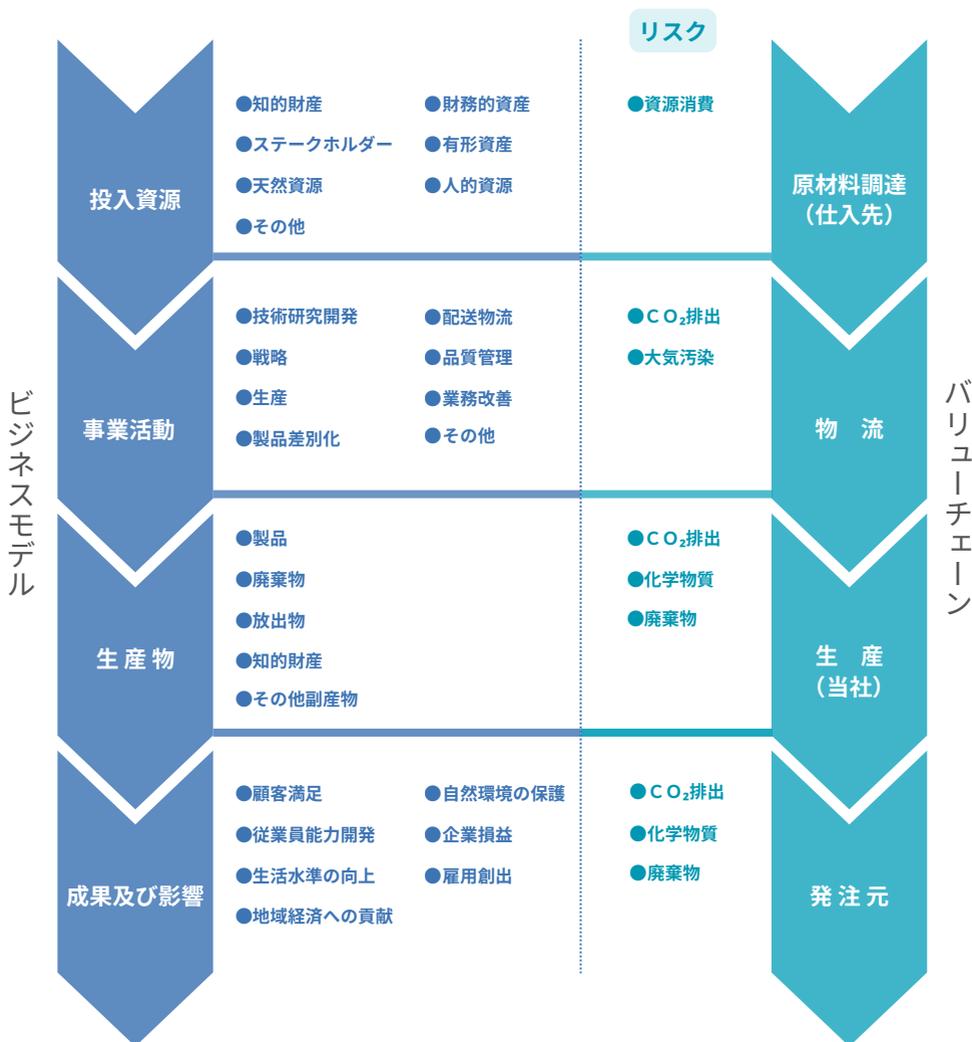
リスクマネジメントの有効性評価は、経営幹部会議の中で適宜実施しています。

### 対象となるリスク

- ◆地震、洪水、事故、火災等の災害リスク
- ◆製品性能・品質に係るリスク（事業リスク）
  - ◇異常気象激甚化等の急性リスク
  - ◇平均気温上昇等の慢性的リスク
  - ◇低炭素社会への移行に伴うリスク
    - ▽政策・法規制の変化によるリスク
    - ▽技術の変化によるリスク
    - ▽市場の変化によるリスク
    - ▽評判に係るリスク
- ◆不適正な業務執行によるコンプライアンスリスク
  - ◇ハラスメント等の人事・労務リスク
  - ◇税・財務リスク
- ◆情報システム、セキュリティリスク

# 当社のビジネスモデル

当社のビジネスモデルを構成する各要素は、短・中・長期のいずれの期間においても有効に機能する価値創造システムとして統合的に一体化しており、バリューチェーン全体で重要な環境課題と付帯するリスクを以下のように識別しています。



## 2024年度までの環境中期計画結果

当社は、原単位CO<sub>2</sub>排出量および原単位産業廃棄物処分量について、2021年度を基準年度として2024年度までに3%削減という目標を掲げ、取り組んでまいりました。

CO<sub>2</sub>排出量削減目標

産業廃棄物処分量削減目標

2021年度の実績を基に  
3年間で3%削減

年 度	基準年度 (2021)	2022	2023	2024
CO <sub>2</sub> 排出量 (kg-CO <sub>2</sub> /千㎡)	484	516	569	518
産業廃棄物処分量 (kg/千㎡)	67.7	65.0	66.6	53.7

原単位は生産数量から算出しています。

2024年度のCO<sub>2</sub>排出量は、生産数量が前年度比12.9%増加したことによる生産効率アップと、草加事業所における低炭素電力の導入（11月より）によるCO<sub>2</sub>削減効果が非常に大きく、前年度比9.0%の削減となりました。しかし、2021年度比では7.0%の増加となり、目標の3%削減は残念ながら未達となりました。生産数量は前年度比較では増加しましたが、2021年度の実績を基準として2024年度までに3%削減という目標を掲げ、取り組んでまいりました。生産数量は前年度比較では増加しましたが、2021年度の実績を基準として2024年度までに3%削減という目標を掲げ、取り組んでまいりました。生産数量の減少に伴う生産効率の悪化に省エネ効果が追いついていない為です。

産業廃棄物処分量は生産数量が12.9%増加したものの前年度比で19.4%の削減、2021年度比では20.7%削減し、目標の3%削減を大きく達成しました。リサイクル業者の開拓を進めリサイクル率が向上したことが要因です。



当社は、2024年度を基準年度として2025年度から2027年度までに原単位CO<sub>2</sub>排出量は8%削減、原単位産業廃棄物処分量については2%削減を目標に取り組んでいきます。

## CO<sub>2</sub>排出量削減目標

### ■2024年度の実績を基に3年間で8%削減

【内訳】

低炭素電力の導入による削減分：7% 省エネ対策による削減分：1%

年 度	基準年度 (2024)	2025	2026	2027
二酸化炭素排出量 (kg-CO <sub>2</sub> /千㎡)	518	TBA	TBA	TBA
2027年度目標：477kg-CO <sub>2</sub> /千㎡				

## 産業廃棄物処分量削減目標

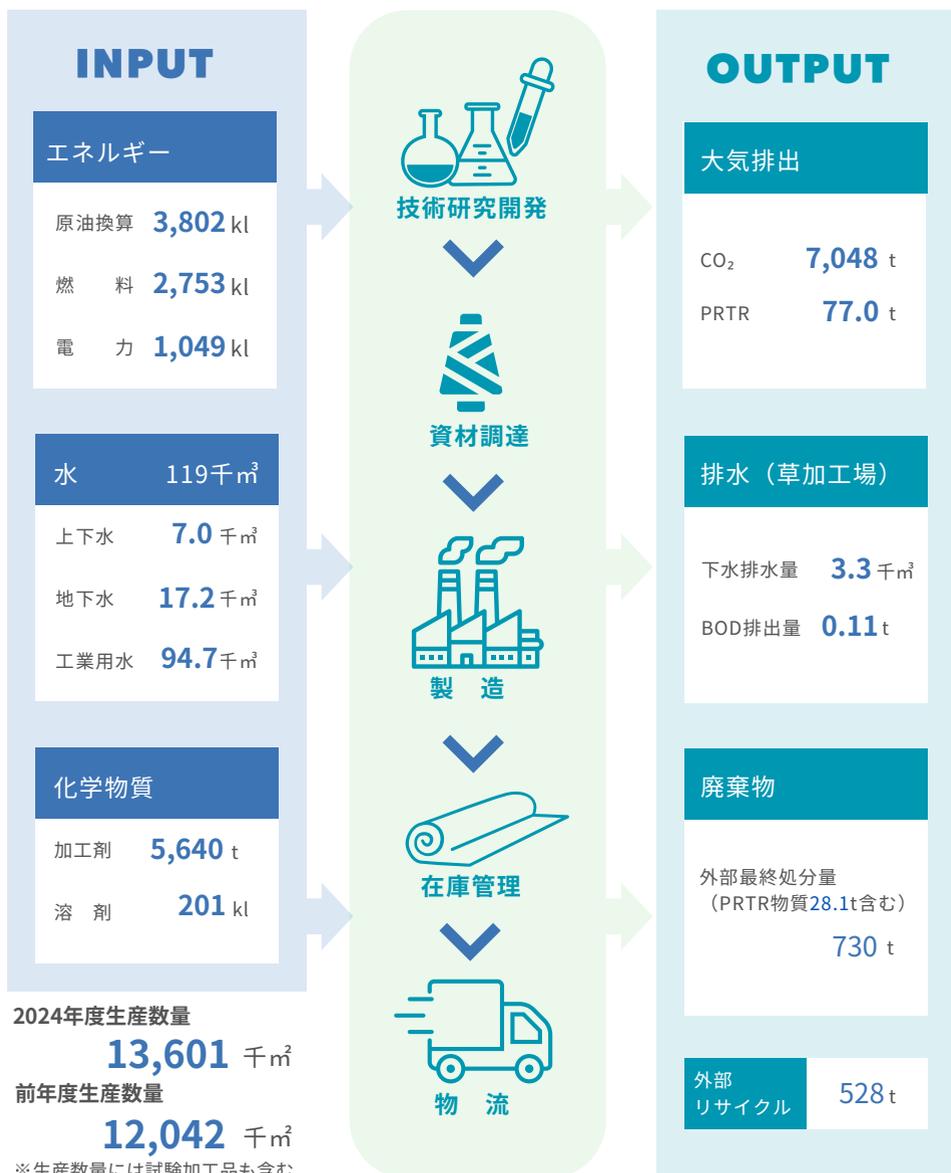
### ■2024年度の実績を基に3年間で2%削減

年 度	基準年度 (2024)	2025	2026	2027
産業廃棄物処分量 (kg/千㎡)	53.7	TBA	TBA	TBA
2027年度目標：52.6 kg/千㎡				

# 環境報告の全体像

当社は、その事業活動において排ガス、排水、廃棄物等、様々な環境負荷の実態を正確に把握し、低減に努めています。

2024年度の事業活動におけるインプットとアウトプットは、下図のとおりとなっています。



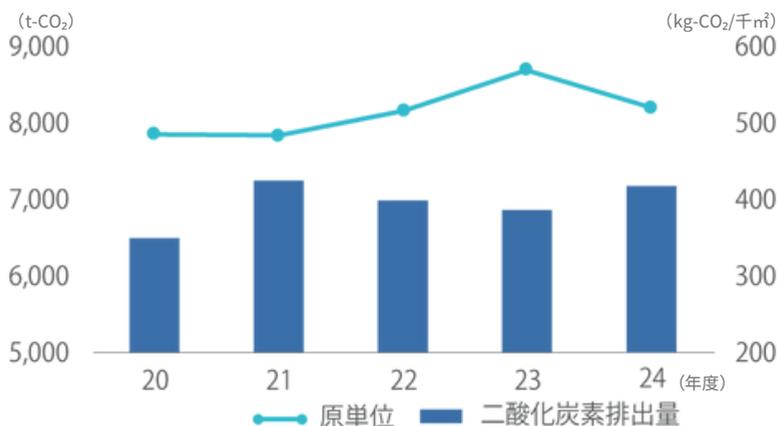
## 気候変動抑制

2024年度の工場全体のCO<sub>2</sub>排出量は、前年度比2.8%増の7,048t-CO<sub>2</sub>でした。また、原単位排出量（生産数量当たり<sup>※1</sup>）については、前年度比生産数量が12.9%増加したことに伴う、生産効率アップの影響と、草加事業所において11月より電力会社から受け入れた低炭素電力668kWhによる331tのCO<sub>2</sub>削減効果が非常に大きく、9.0%減となりました。

2025年度は滋賀工場の作業環境改善で空調設備を増強した一方で、草加工場では空調設備の更新や高効率ボイラー2台更新、更に夏場の遮熱対策など、着実に省エネを推進しています。

### ■年度毎の二酸化炭素排出量<sup>※2</sup>

年度	2020	2021	2022	2023	2024
二酸化炭素排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	6,494	7,124	6,985	6,857	7,048
原単位 (kg-CO <sub>2</sub> /千㎡)	485	484	516	569	518
生産数量 (千㎡)	13,398	14,733	13,546	12,042	13,601



※1 原単位の生産数量には、試験加工数量も含んでいます。

※2 電気の二酸化炭素排出係数は、22年度以前に適用の埼玉県の固定係数(0.495t-CO<sub>2</sub>/千kWh)を適用。

## 水資源・生物多様性保全

### ◆当社対象範囲について

工場排水を行っているのは、染色を行っている草加事業所です。そのため、水質汚濁防止法の適用対象は草加事業所のみとなり、滋賀工場は適用対象外となります。

### ◆草加事業所における取組状況

染色対象製品の大幅減少に伴い、染色排水量が激減したことと、排水処理施設の最新型加圧凝集浮上設備へ更新したことにより、2018年度以降のBOD<sup>※1</sup> 排出量が、2017年度の10分の1前後まで減少しています。更に、下水の水質自主検査を毎月実施し、継続的な水質監視を行っています。

今後も引き続き、草加市下水道条例で定める下水排除基準に適合した水質維持に努めてまいります。

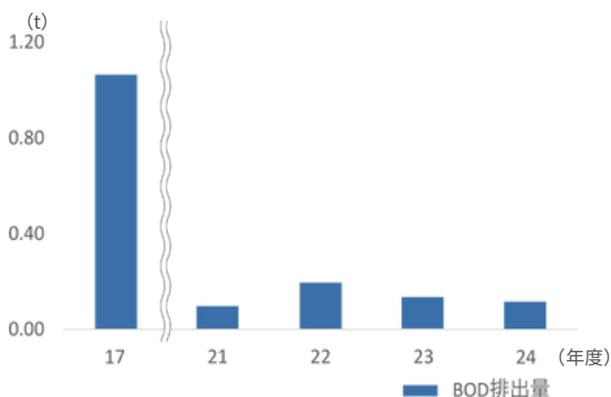
※1 BOD・・・Biochemical Oxygen Demand 生物化学的酸素要求量  
 水中の有機物などの量を、その酸化分解のために微生物が必要とする酸素の量で表したものです。過剰な有機物の排出が招く腐敗による酸欠により、水中の酸素（溶存酸素）が減少すれば、魚類等の好気性生物が生存できなくなり、さらになくなった場合には、いわゆる「水が腐る」状況となり悪臭等の発生に至る（魚類が生存可能な溶存酸素濃度の下限が3-5mg/Lと言われ、環境基準のC類型の基準値として採用されている）。



2018年9月導入 排水処理施設

### ■年度毎のBOD排出量

年度	2017	2021	2022	2023	2024
BOD排出量 (t)	1.06	0.10	0.19	0.13	0.11





## 産業廃棄物削減

2024年度の産廃処分量は730tで前年度比9.0%減少しました。

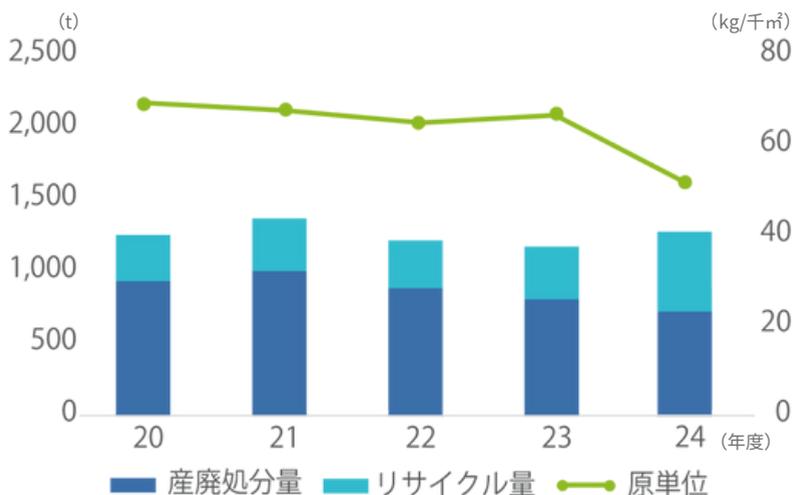
主要因は滋賀工場にてケミカルリサイクル業者を新規開拓し、約120tを回収してもらったことが大きく寄与しております。

その結果、リサイクル量は昨年度と比較して33.7%増加しました。

今後も引き続き、新規リサイクル業者を開拓し産廃処分量の削減に取り組みます。

### ■年度毎の産業廃棄物発生量

年 度	2020	2021	2022	2023	2024
産業廃棄物処分量 (t)	929	997	880	802	730
リサイクル量 (t)	319	366	330	395	528
原単位 (kg/千㎡)	69.3	67.7	65.0	66.6	53.7



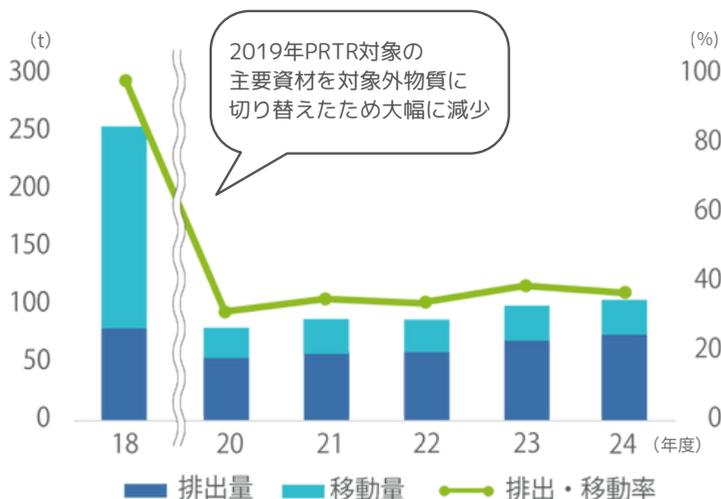
## 化学物質の適正管理

2024年度は、前年度と比較して生産数量が12.9%増加しました。これに伴い、PRTR対象物質の使用量が増えた影響で排出量は前年度比11.0%増加しました。一方で、産業廃棄物の一部をケミカルリサイクルとして再利用する取り組みを進めた結果、移動量は前年度比10.2%減少しました。しかし、排出量の増加幅が移動量の減少幅を上回ったため、排出量と移動量の合計値は前年度比4.6%増加する結果となりました。

### ■年度毎のPRTR届出排出移動量

年度	2018	2020	2021	2022	2023	2024
排出量 (t) <sup>※1</sup>	80.3	54.6	60.4	59.7	69.4	77.0
移動量 (t) <sup>※2</sup>	175.0	26.3	30.0	28.2	31.3	28.1
排出・移動量推移 (%) <sup>※3</sup>	100.0	31.7	35.4	34.4	39.4	41.2

※2024年度の数値を精査する過程で、2023年度の一部数値に誤りがあることが判明したため、併せて訂正しています。



※1 排出量は大気放出量

※2 移動量は産廃処分量

※3 排出・移動量推移は、2018年度を基準(100%)とした場合の増減



## 大気汚染予防

### ボイラ燃料の完全ガス化



2025年1月更新 蒸気ボイラ

SO<sub>x</sub>（硫黄酸化物）排出量は、ボイラ燃料の完全ガス化（A重油全廃）により、2011年1月からゼロとなっています。ばいじん排出も、都市ガスへの燃料転換による効果で、極めて低い水準で推移しています。更に高効率ボイラに更新してCO<sub>2</sub>削減に貢献しています。

### VOCの排出抑制



2006年8月導入 RTO

揮発性有機化合物（VOC）の排出抑制では、グラビア塗工機から発生する有機溶剤ガスを蓄熱式排ガス浄化装置（RTO）に導入、95%以上を燃焼し、大気放出量の大幅削減に貢献しています。

### 分散型エネルギー導入



2019年3月導入 ガスコージェネレーション（CGS）

草加事業所ではクリーンな都市ガスを燃料として最大700kW発電可能なCGSを導入し、環境負荷低減に大きく貢献しています。日中最大限、CGSで発電した電力を使用しており、省エネルギーとCO<sub>2</sub>排出量の削減に寄与しています。

また、非常時の停電時にはガス供給により発電すること（ブラックアウトスタート方式）ができ、事務所、福利厚生施設等を避難所として活用することができます。

# Reduce

-リデュース-

●生産における基布カットのロス削減や洗い溶剤の使用削減により資源使用量、廃棄物排出量を削減

●枯渇性資源(現行購入資材)を再生可能資源(バイオマス資材など)へ転換使用しCO<sub>2</sub>排出量を削減

●再生資材を使用した製品設計へ転換し購入資材使用量を削減

●マテリアルリサイクルによって回収した塩ビチップを使用し再生フィルム製品を開発・製造することでエネルギーコスト、CO<sub>2</sub>排出量を削減



# Reuse

-リユース-

2024年度の取り組み

●環境教育イベント参画



授業風景



製作作品

●海外新興経済国へ端尺反など廉価販売し廃棄物排出量を削減

2023年度の取り組み

●廃材のアップサイクル



トートバッグ

ペットボトルホルダー

●廃材をRPF(燃焼助剤)の原料として使用

# 再生

# Recycle

-リサイクル-

分離



マテリアル

粉碎

洗浄

洗浄



ケミカル

分解

合成

2023年度の取り組み

●使用済み作業着を廃棄せず再生事業に参画することで廃棄物排出量、CO<sub>2</sub>排出量を削減

2024年度の取り組み





## 紙製ファイル



従来のプラスチッククリアファイルに代え、ベジタブルオイルインキを使用しカーボンオフセット<sup>※1</sup>を付加した紙製のファイルをお客様へのサンプル送付時等に使用しています。紙製ファイルの裏面には、SDGsに対する当社の取り組みを掲載しています。

※1 カーボンオフセットとは…

日常生活や経済活動において排出されるCO<sub>2</sub>排出量を認識し、できるだけ排出量が減るよう削減努力を行い、それでも削減が困難な排出量は他の場所で実現したCO<sub>2</sub>排出削減量を購入することにより、自身の排出量の全部または一部をオフセット（埋め合わせ）する活動。

## 事業所内の照明をLEDに刷新



工場内全体に展開されたLED照明の取り組みは、環境への配慮と経済的な利益の両面で成果を上げており、今後も持続可能なエネルギー管理の一環として取り組んでまいります。

# 人と環境にやさしい企業活動

7 エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに



エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに

化学物質排出移動量届出制度に基づく取り組みを行っています。燃料油、溶剤、塗料等の揮発を防止する等、VOCの排出抑制に取り組んでいます。大気汚染の少ないプロセスや都市ガス燃料を採用しています。

3 すべての人に  
健康と福祉を



すべての人に健康と福祉を

エネルギー使用量を把握・報告し、削減に取り組んでいます。ガス・コージェネレーションシステムを導入することにより、昼夜の電源の平滑化を図りエネルギー効率を改善しています。

12 つくる責任  
つかう責任



つくる責任 つかう責任

分別回収ボックスの適正配置により、ごみの分別を徹底しています。溶剤回収システムを導入し、大気への放出を最小限に抑えています。製品のライフサイクル長寿化に常に取り組んでおり、廃棄物の削減を図っています。

2 地球を  
まもる



グリーンハウス専用膜材を開発し、世界的有名なテントメーカーに納入することを通じて、世界中で農業生産性を向上させるグリーンハウスの普及を支えています。

8 働きがいも  
経済成長も



発展途上国含め、すべての人の働く権利を守って安全に安心して仕事ができる環境を作っています。

14 海の豊かさを  
守ろう



魚類の養殖用に無毒ターポリンを提供しています。栽培漁業に使用される膜材を提供しています。

6 安全な水とトイレを  
世界中に



安全な水とトイレを世界中に

水質汚濁の少ないプロセスや機器を採用しています。排水処理装置を適切に設置し、排水等の監視及び測定や排水処理設備の点検を定期的に行い、適正に管理しています。

11 住み続けられる  
まちづくりを



住み続けられるまちづくりを

産業廃棄物最終処分量、発生量の削減や化学物質使用量の把握と削減に取り組んでいます。ばい煙等の監視及び測定や廃棄処理設備の点検を定期的に行う等、適正に管理しています。

13 気候変動に  
具体的な対策を



気候変動に具体的な対策を

温室効果ガス排出量を把握し、環境負荷低減に取り組んでいます。遮熱効果のあるクールマックスシリーズを商品化し、気候変動対策へ貢献しています。災害に遭遇した場合でも事業を復旧し、継続するための計画や準備に取り組んでいます。

5 ジェンダー平等を  
実現しよう



セクシャルハラスメント・パワーハラスメントなどの人権侵害を予防するための社員教育を行っています。従業員、またはその家族の妊娠・出産・育児・介護・看護、その他健康状態に配慮した労働環境を整備しています。

9 産業と技術革新の  
融合をつなぐ



製品の同一機能に対して資源使用量のミニマム化を指向しています。また、製品の長寿命化を指向しています。産学官連携を行っております。

17 パートナシップで  
目標を達成しよう



廃棄していた生産端材をリサイクル事業者とのパートナーシップにより再利用、さらに異業種連携により新たな製品として生まれ変わらせるアップサイクルへの取り組み、官民連携により地域の子供たちへの環境教育支援を実施しています。

# 人と環境にやさしい製品づくり



当社は、開発する製品に対し環境負荷低減を追求しエコプロダクツ（環境配慮型製品）の開発に取り組んでいます。

## ◆遮熱シリーズ

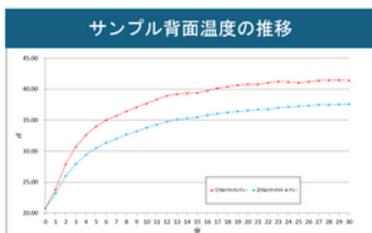
地球温暖化が深刻な社会問題となる中、2025年6月より労働安全衛生規則が改正され職場の熱中症対策が義務化され、従業員の皆様を暑さから守ることがより一層重要になりました。当社ではこうした状況に対応するため、膜材に日射熱を和らげる効果を付与した遮熱シリーズ（ウルトラマックス®クール、エバーマックス®450クール、サンドリーム®2クール、ターポロン®G-3000 II 遮熱アイボリー）を展開し、膜構造物内部空間に対する快適なソリューションをご提案しております。



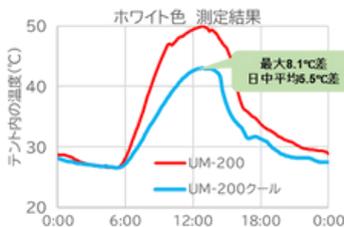
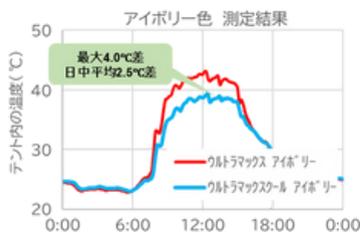
## 日射熱取得率・遮熱率データ

	色相	加工タイプ	日射熱取得率				遮熱率 (%)	区分
			反射率 (%)	透過率 (%)	吸収率 (%)	日射熱取得率		
ウルトラマックス®	アイボリー	通常	75.0	14.6	10.4	0.17	51	S45
		クール	<b>79.5</b>	<b>7.1</b>	<b>13.4</b>	<b>0.11</b>	<b>58</b>	<b>S55</b>
エバーマックス®450	アイボリー	通常	75.8	12.2	12.0	0.15	52	S45
		クール	<b>80.0</b>	<b>5.1</b>	<b>14.9</b>	<b>0.09</b>	<b>60</b>	<b>S55</b>
ターポロン®G-3000 II	アイボリー	通常	74.9	7.1	18.0	0.12	56	S55
		クール	<b>79.8</b>	<b>3.1</b>	<b>17.1</b>	<b>0.08</b>	<b>62</b>	<b>S55</b>
サンドリーム®2	透明	通常	19.6	67.7	12.7	0.71	10	S15-
		クール	<b>42.9</b>	<b>45.0</b>	<b>12.1</b>	<b>0.48</b>	<b>30</b>	<b>S15</b>
試験方法			JIS R 3106				JIS L 1951	

## 遮熱性試験結果<JIS L 1951>



## 従来タイプと遮熱タイプの比較



**抗ウイルス性能ターポリン**  
**エコターポ® 非塩ビ カラーシリーズ**

### ◆非塩ビターポリン

#### エコターポ® 非塩ビカラーシリーズ

燃えた時にダイオキシンや塩素ガスが発生する原因となる材料を含んでいません。また、フタル酸フリーで安全性の高いターポリンです。

抗ウイルス性能により、衛生面にも配慮しています。

### ◆バイオマスプラスチック製品

#### バイオマスターポリン〈開発提案品〉

軟質塩ビフィルム中の汎用可塑剤の一部を石油由来から植物由来に変更したターポリンです。

石油由来資源プラスチックを15%削減できるだけでなく、成長過程でCO<sub>2</sub>を吸収する植物を由来とした成分の使用により大気中のCO<sub>2</sub>の発生量を抑えることができます。

**植物由来可塑剤使用**  
**バイオマスターポリン**



平岡織染株式会社 HIRAOKA & CO., LTD.

東京 〒110-0011 東京都台東区三ノ輪1-21-7

TEL.03-3876-2111

FAX.03-3875-5627

大阪 〒541-0044 大阪市中央区伏見町4-2-14

TEL.06-6209-7000

FAX.06-6209-7011

